



SDGs 達成に向けた知見の共有 International Conference on Sustainable Development の開催

(一財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所 所長補佐 大沼 翔司 (滋賀県派遣)

会議の概要

2018年9月27日に、コロンビア大学主催で第6回持続可能な開発に関する国際会議 (Sixth Annual International Conference on Sustainable Development) が開催され、国連や行政、大学、民間企業などの関係者約450名が出席しました。この会議では例年、SDGs (持続可能な開発目標) に関するテーマ (環境問題やイノベーションなど) について話し合い、認識を共有しています。今年はニュージーランド (NZ) のジャシング・アーダーン首相とノルウェーのホーコン・マグヌス皇太子がキーノート・スピーチを行ったほか、専門家によるイノベーションに関するパネルディスカッションが行われました。

SDGs とは

SDGs とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標で、持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。目標の達成には経済成長・社会的包摂・環境保護の3つが不可欠であり、各国はこれらのバランスを保ちながら、貧困の根絶や持続可能なエネルギーの確保などに向けた取り組みを行っています。

キーノート・スピーチ

司会を務めたコロンビア大学のジェフリー・サックス教授は冒頭、上記の経済成長・社会的包摂・環境保護の3点に関して、資本主義により世界は繁栄しているように見えるが、「社会的正義」と「環境の持続可能性」が損なわれており、政治・モラル・行動の変革が必要だと語りました。

NZのジャシング・アーダーン首相は、社会的包摂のため変革に取り掛かろうとしていると述べました。NZでは伝統的に「政治的成功」は経済指標で測られ、この意味では政治は成功しているものの、現状は貧富の差が拡大するなど社会状況の悪化を伴っていると報告しました。この課題に対処すべく、政治的成功とは何かを再定義し、国の政策全てにSDGsのような指標を組み込むことを決定したとのことでした。

また、ノルウェーのホーコン・マグヌス皇太子は環境保護について述べました。クリーンエネルギー分野を例に挙げ、かつて高コストだった太陽光発電の発電コストが技術革新により大幅に下がり、石炭火力発電に取って代わるほどになっていると指摘しました。

そのほか、ライブ中継で登場した国連のアミーナ・J・モハメッド副事務総長は、異なる立場の国々をSDGsの枠組みにいかに巻き込むかが課題であると語りました。また、コスタリカのカルロス・アルバラード大統領は、同国が2016年に国家として初めてSDGsに取り組んだことを紹介し、化石燃料に頼ることなく、持続可能な経済を創る必要があると語りました。



ノルウェーのホーコン・マグヌス皇太子

会議を終えて

私の派遣元の滋賀県では、2017年1月に全国に先駆けSDGsを県政に取り込むことを宣言しました。行政には多様な関係者との連携が求められ、そういった意味で多くの主体が参加するこの会議は連携事例の好例だと思います。